

神々へ捧ぐ祈りの舞い

九州山地神楽祭り

平成25年1月26日
蘇陽総合支所営農大ホール



仁瀬本神社神楽「五穀」



白石神楽「花神楽」



①



②



③



④



⑤

①鞍岡祇園神楽（宮崎県五ヶ瀬町）②高千穂の夜神楽（宮崎県高千穂町）
③中江岩戸神楽（阿蘇市波野）④「大阿蘇蘇陽太鼓喜楽」迫力の演奏
⑤白石神楽のかわいい舞い手。佐藤成慈くん（左）と久枝咲二郎くん（右）

九州山地の神楽保存会が豪華共演する「九州山地神楽祭り」が1月26日、蘇陽総合支所営農大ホールで開かれました。今年、「仁瀬本神社神楽」（二瀬本）、「白石神楽」（白石）の町内2団体、そして「中江岩戸神楽」（阿蘇市波野）、「鞍岡祇園神楽」（宮崎県五ヶ瀬町）、「高千穂の夜神楽」（宮崎県高千穂町）が出演。それぞれ約40分のダイジェスト版を次々と披露しました。地域で受け継がれてきた、厳格な雰囲気、舞が次々と舞台上で演じられ、詰めかけた神楽ファンを喜ばせました。

オープニングを飾ったのは、「大阿蘇蘇陽太鼓喜楽」。結成10周年を迎えた今年の演奏も迫力の一言。「喜楽」は午後9時にも登場。「太鼓神降臨」など3曲を演奏しました。

甲斐町長が歓迎のあいさつを行った開会セレモニーに続いて、最初に舞いを披露したのは山都町の二瀬本地区に伝わる「仁瀬本神社神楽」。演目は「五穀（ごこく）」。「盆の上に五穀（米、麦、粟、豆、黍）を乗せて、五穀豊穣を感謝する舞いです。舞いの終盤、4人の舞い手が観客席に向け、五穀に見立てたアメやチョコなどを投げ入れ、大きな歓声を浴びていました。

続いて登場したのは、同じく山都町の白石地区に伝わる「白石神楽」。演目は「場神楽」と「花神楽」。「場神楽」には、かわいい舞い手が登場。佐藤成慈くん（左）と久枝咲二郎くん（右）が、11月に行われた、白石お天道さん神楽まつりで初舞台を踏んだ2人は、今回も息の合った舞いを披露し、立派につとめあげました。二人は最後に観客席に降りて、観客に餅などを配っていました。

このほか、平家ゆかりの京都文化の影響が残る「鞍岡祇園神楽」、国の選択無形民俗文化財の指定を受け、大きな太鼓の音と迫力の舞を披露した「中江岩戸神楽」、同じく国の重要無形民俗文化財の指定を受けている「高千穂の夜神楽」が次々と舞台上に登場しました。「高千穂の夜神楽」の「山森」という演目では、山の神イノシシ2頭が会場に現れました。このイノシシに頭を噛まれると縁起が良いとの言い伝えがあり、観客は賽銭やお菓子などをイノシシの口に入れたあと、次々と頭を噛まれました。

会場には、県内外から約300人を超える神楽ファンが集まり、独特の笛と太鼓の演奏にあわせた神々しい舞いに、盛んに拍手を送っていました。また、ホールでは、地元食材を使ったお弁当、地元野菜などのバザーが行われました。